

罷業の費用

二六

本年度に於ける罷業に要したる費用は、四萬七千七百七十六圓二十八錢であり、一人一日當り平均は二十四錢九厘であった。この内最も多額を要したるものは、關東紛争議で、五百人の争議団員の生活を百十五日間も維持したる結果、二萬一千五百五十圓を支給したのである。工場閉鎖に對し、復活及解雇手當請求の爲め行ひたる争議に要したる費用は、一萬一千五百八十七圓五十一錢である。之に罷業費用を合計すれば、五萬九千三百六十三圓七十九錢に上る。これ等の費用は、「争議費用」として雇主の負擔たる部分もあるのであるが、何れにせよ、合理的平和が確立されて、斯る費用の減少することは望まじきことであると言はねばならぬ。

罷業に對する同盟の方針

毎年繰返し述ぶるが如く、我同盟の方針は一貫して「罷業最少化」の方針である。この方針が著々實現を見つゝあることは、本年度の罷業状態に於ても現はれて居る。團體協約運動の發展に伴ひ、勞資關係合理化が行はれ、罷業の減少することは、産業上、労働者生活上善ぶべきことであるのみならず、労働組合の職闘費を減少せしめ、建設的方面に一層活用するを得べく、労働組合主義徹底の爲に缺くべからざることである。

協同組合事業成績

消費組合

加盟組合關係の消費組合は、第十一表の如く昭和七年八月末現在に於て十九組合、三八三九名である。前年度に比するに、四組合新設され、一組合解散し、四組合は選友同志會關係の爲脱退し、依つて一組合減じたのである。組合員數に於ても、前年度に比して、七百十二を減じたのである。この減少の中には失業者の組合を脱退したものの相當多きによる結果である。(尚尼ヶ崎購買組合共團社の報告未着の爲め本表には計上されて居らない)

第十三表の如く、消費組合の發達は遅々として居り、組合及組合員數に於ては、却つて減少の傾向さへ認められるのであるが、平均一ヶ月賣上高、一人利用高は、物價下落の時代であつたにも拘らず漸増して、健實なる發達振りを示して居る。即ち本年度の一ヶ月平均賣上高は四萬三百九十九圓、一人一ヶ月平均利用高は十四圓五十二錢に上つた。

協同工場及生産組合

我同盟關係生産組合は第十二表の如く一組合に止るが、協同工場は昭和七年八月現在に於て十三工場、生産種目は八種により、従業員數は五百八名である。その成績は一概には言ひ得ざるも、雇主の失敗の後を承けたるものとしては、相當良好の成績を上げて居ると言ひ得られる。同盟の方針としては、失業防止の目的を以つて、止むを得ず經營して居るもの多く、金融等も關東方面に於ては、關東同盟預金部の融通を受けて居るものもあるのであるが、相當の經營者が現はるれば、漸時之を之に譲渡して行く方針である。

尚、埼玉縣川口に、本年八月建設せる友愛鑛鐵所は、全然新に關東同盟の出資に依り、失業者救済の目的で開業されたものである。

二七